

第 32 回総合教育会議

○山口知事

今日は私立高校の授業料完全無償化について意見交換したいと思います。これはたしかこの前の中教審でも何か一言触れたと思っていて、都心部とちょっと違うんだ、我々は。基本的に中教審の委員は、都心部の方が多いので、一言伝えたのは、特に都市部は私立に行く方がとても多い。そこを無償化する話が進んでいるわけですが、我々の九州では割と公立に行く生徒がとても多く、私立高校が無償化するというのはどういう影響があるのかがまだはっきりしないところもあるのですが、もしかすると、県境などは、福岡県や長崎県の私学がこれで非常に充実したりすると、もしかしたら流出するかもしれないということと、申し上げたのは、公立高校だからといって、同じような教育を各学校がするのではなくて、佐賀県は特にそれぞれの特徴、誤解を恐れずに言えば、それぞれが私立のような形でそれぞれの校風をしっかりと持った上でやっていくような時代に入っていくのではないかと思います。

今日は先が見えないところもあるのですが、完全無償化を受けて、公立高校はどうあるべきなのか答えがないので、皆さん方の思いをそれぞれ話してもらったらいんじゃないかなと思います。

○佐保政策企画監

ありがとうございました。

それでは、会議に入ります。

最初のテーマは「私立高校の授業料完全無償化を受けた公立高校のあり方」ということです。

まず、政策部から説明をさせていただきます。

高校授業料の無償化は御案内のとおりでございます。平成 22 年から私立高等学校の生徒の就学支援金制度を創設されたということで、当時は私立は所得制限がなかったということですけれども、年収の目安と、あと支給の上限額という 2 つの軸でいきますと、平成 22 年、平成 26 年、令和 2 年とそれぞれ制度のほうが改正されていて、無償化というのが広がってきております。

令和 7 年度、今年度はいわゆる高校無償化の先行措置として、令和 7 年度分については全世帯を対象とする支援金 11.88 万円ですね、ここを所得制限なしという、収入の要件を撤廃される形でスタートをしております。

○山口知事

大体私立の年間の学費はおおむね幾らぐらいなんですか。

○佐保政策企画監

はい。大体全国平均 45 万円ぐらい。

○山口知事

そうだね、45 万円だね。（資料を指しながら）だから、ここが今まで払っていた部分で、これが 45 万円ぐらいかかるけど、このぐらいまで払ってやっていたやつで。だから、だんだん広がってきてということだね。

○佐保政策企画監

はい。

令和 8 年度の予算の編成で検討されますけれども、所得制限を撤廃して私立高校、この青い部分ですね、ここにつきましても支給をするということで、45.7 万円なので、これが全国の私立の平均ですので、所得制限なくほぼ全ての公立・私立の方に対して無償化ができるということで進められております。

○山口知事

そうすると、私立は 45 万円までは無償化されるから、これまで集めてきたようなお金を設備とかに回せたりとかするってこと。

○甲斐教育長

授業料と別に校納金があります。

○山口知事

もっとフレキシブルに、魅力化が進んでいくと、トイレなど。

○甲斐教育長

トイレはもう既に新しくされている。

○佐保政策企画監

このことによって、多くの生徒にとっては私立高校への進学がより大きな選択肢となり、公立への進学希望者が減少することが懸念される。

先行して、東京都と大阪府は実施されております。東京都については、都と国の制度を合わせて 49 万円、4 を支給上限額として無償化をされています。所得制限なしということで、令和 6 年度は高校 1・2・3 年生が対象になっております。

令和 7 年度の都立高校の一般入試、全日制では倍率が 1.29 倍となっているそうで、定員割れが増加をしているというようなことで聞いております。

大阪府も府と国の制度を合わせて、63 万円を支給上限額にされています。こちらも所得制限はなしで、令和 7 年は高校 2・3 年生が対象になっています。こちらも令和 7 年度の府立高校の一般入試では倍率が 1.02 倍と、1 倍に近いですが、定員割れが増加をしている。もともと令和 5 年度が 1.13 倍、令和 6 年度が 1.05 倍ということで少しずつ下がってきている状況でございます。

報道では授業料の無償化による私立高校の人気の高まりではないかということが言われております。

○甲斐教育長

佐賀県の動きを見てみます。ブルーが県立高校、オレンジが私立高校、この折れ線のところが私立在籍者数比率で表しております。先ほど制度の説明がありました、3 回変わるフェーズがありました。平成 22 年度 4 月、制度が導入されたときに私学のほうが在籍率上がりました。そして、平成 26 年、所得制限導入で 910 万円以上の世帯というのが対象外になりました。そうすると、少し下がりました。またじわじわと上がってきて、支給上限が引上げ、590 万円以上のところの階段がなくなった部分があって、大きく引き上げられたので、ここでもた上がります。じわじわと上がってきて現在に至っておりますけれども、さっきおっしゃったように、都市部とはまた違うのではないかなと思っています。

どういう影響があるか、今のところまだ見込めないのですが、教育委員会としては、これまでも特徴あると知事がおっしゃっていただいたように、唯一無二の学校づくりをやってきておりまして、例えば、ここから上だと、普通科改革、普通ではない普通科ということでコースを設けたり、スポーツ科新設、そして伊万里高校は MIRAI 進学科新設というふうに、普通科においてもまだ見ぬ特徴を出してまいりました。

それから、有田工業高校ですと、地域と連携して「地域みらい留学」で今 14 人の生徒が県外から全国募集で来てくれています。そして、白石高校は地域のキーパーソンの協力をいただきまして「出張山の会議（仮）」というふうにフィールドワークとかをして、特徴ある学びをやっています。牛津高校は、地元の企業、キャリア塾とかキャリア教育とかをやっているところによる「起業家入門」という特徴ある学びを展開しています。鹿島高校は、各分野の卒業生たちがたくさん集まってきて、在校生のために「旭ヶ丘キャリア塾・ラボ」をやっています。

そして、いろんな取組がありまして、令和 3 年の県外入学者が 91 人だったところが、令和 7 年には 209 人ということで 2.3 倍に増加しております。

○山口知事

これは公立だけだね。

○甲斐教育長

はい、公立です。

今後こういった魅力の磨き上げを各校でやっていきます。特徴的なところを申し上げますと、唐津青翔高校でeスポーツ学科を新設します。神埼高校は地の利を生かして、こども教育進学コースに取り組んでまいります。

それから、積極的な情報発信ということで説明会とか隣県でのPRということをやってきましたんですけども、年々参加者が増えてきています。対面もオンラインも増えてきています。福岡県や長崎県からの参加者というのも増えてきております。佐賀県の高校に通っているんだという認知が進んできております。

それから、知事部局の移住施策に協力していただいて、移住イベントも出展して、佐賀でこういった教育を受けられますよと。

今やっておりますのが、唐津地区の寮の環境整備で、食堂の運営開始に向けて準備中です。青翔高校は交流拠点（寮）の整備を進めているところです。

そして、県立の特徴は専門高校、近くにはない地域に根差した実践的な教育ということで、例えば、鳥栖工業、佐賀工業ではキューボラという鉄を溶かして鋳型に流し込んで鋳造するという実習をやっています。1,500度からなるものでして、何をするかというと、やっぱりそこがものづくりの基盤です、機械の部品を作る、その基本のところからやっています。それをやりますと、重要ですし、危険ですので、生徒たちの意識というのが前後で大きく変わります。やっぱり佐賀藩は初めて反射炉を作って、大砲を作った佐賀藩のやる意義というのは大きいかなと思っています。全国で少ないそうです、6校のうち2校がやっています。なかなかこれをやるためには先生たちの技能とか熱意がないとできない、どこでもはできないと思っています。

有田工業高校は先ほど申し上げましたように、全国からみらい留学ということで来てもらっています。肥前やきもの圏から依頼されて、ミニチュアの「窯ガチャ」のカバーを作って、今、有田駅前の観光案内所のところに設置をされています。

神埼清明高校、こちらは総合学科なんですけれども、生活福祉系列のところでは5年連続介護福祉士全員合格ということで、これも熱心な先生とか、専門的な知見のある、技能のある先生方が支えております。

そして、唐津商業高校は「学美舎」ですね、オンラインショッピングのモール、会社をつくっております、地元の企業さんも多数参加して、その商品も扱っているんですけども、オリジナル商品もやっております、社長も幹部社員も生徒であります。

高志館高校は、これはアクアポニックスといって魚の養殖と野菜の水耕栽培と同じ水を循環させるという、そういう環境にいい事業をやっております、高志館がどこに絡んでいるかということ、野菜の水耕栽培のところに引っかかってくる。そこで使ったお水がまた魚のほうに回りますので、肥料のやり方とか生育の仕方とかをいろいろ研究しながら、ここは企業さんと一緒に取り組んでいます。

そして、牛津高校は御存じのとおり、全国でも珍しい家庭科の単独高校です。ファッションショーなんかも毎回、浴衣もあり、ワンピースもあり、ドレスもあるというすばらしいファッションショーをしてくれています。令和5年度は自分たちで制服をデザインして実現しています。

○山口知事

いいじゃない。

○甲斐教育長

企業さんとやり取りをして、自分たちで考えた制服ということでやっています。

そういうこともやりまして、地域に根差した専門高校、10年間で県内就職率13ポイント増で66%、地域に人材を供給しております。

ここで県立高校の役割をまとめてみました。一言で言うと、地域に根差した学びの拠点であるということだと我々は思っています。ここに書いていますように、県内どこに住んでいても、子供たちが主体的に学びを選択できる、通えるといった場所に学校がありますし、いろんな学科がありまして、多様なニーズに応じていると。

それから、県立高校ですので、多様な現場、人事異動もしますし、研修もしますし、お互いに意見交換をしますので、やっぱり指導力を磨けると我々は思って、教育の質の確保に力を入れているところです。

それから、地域との共生ということで、地元企業さんとか自治体と連携しながら、地域と一緒に育てていただいているという特徴があると思っております。

以上です。

○佐保政策企画監

甲斐教育長ありがとうございました。

それでは、私立高校の授業料完全無償化を受けて、これからの公立高校のあり方について意見交換をお願いします。

○山口知事

学校と産業界の連携を高めるために、最近、文科省と経産省が一緒になって取り組んでいるらしくて。だから、佐賀県が今までやってきたのは割と流れに乗っている感じがして。

○前田政策部長

先にやっている感があります。

○山口知事

あるよね。

○前田政策部長

はい。こういうのを見越した上で。

○前田政策部長

ちなみに、佐賀県は全国で今 3 位で、39.6%が専門高校です。全国 3 位。1 位が宮崎です。2 位が 42%で鹿児島。3 位が佐賀県です。

○山口知事

だとしたら強みに変えられるよな、これからはね。

○溝上委員

それは何の率ですか。

○前田政策部長

これは公立高等学校の生徒数に占める専門高校生の割合です。

○山口知事

普通科以外ということね。

○前田政策部長

はい。

○山口知事

今までは愛知県に所在する企業へ就職していた大阪とかにさ。だから、さっき教育長が言ったけど……

○前田政策部長

ちなみに、全国平均は 26%です。

○飯盛（いさかり）委員

火曜日、水曜日と全国の教育長・教育委員会連合会の総会に参加をしてきて、まさに同じテーマでありました。

いろんな情報を聞いて、結論的に、さっき知事が言われたように、都会部分はやっぱり私

立無償化で本当に危機感を感じているけど、佐賀はそうかなという、そんなに大きく急に変わることはなさそうだと。その理由は、さっき言われた、やっぱり特色を出すということは何年か前からやってきていますし、さっき牛津だったですか、既に成果も上がりつつあるというようなことですから、もっと少子化に向けての取組に重点を置いて、魅力アップをしっかりやっていけばいいんじゃないかなという気がします。

それと、他県の様子を聞いていて、やっぱり職業高校、そちらの魅力アップということを盛んにあちこちで言われていましたので、さっきも言われた普通科の何とか、普通科が何でもそんな多いかということ、戦後の教育制度で、とにかく高度成長期の大学にやってという、その流れがそのまま残っているんだろうと思いますので、佐賀、宮崎、鹿児島は地元で根差したというのは昔からあったのかなという気が今しましたし、大筋は今の方向で間違っていないだろうなという気がします。

あと、生徒の立場からということですので、選択肢が広がるということは非常にいいことなんだけれども、今の入学試験の制度が、私立は3教科でいいんです。公立は5教科だから、そのまま進むと、それが理由で私立を選んだのであれば、勉強嫌いな子というのが適当かどうか分かりませんが、大丈夫かなという心配はあると思います。

○山口知事

そっか。大体私立は3教科なんですか。みんな理科と社会を勉強したくないという人が、じゃ、無償だったら親も怒らないし、行っちゃおうかな、そんな感じ。

○飯盛（いさかり）委員

少ないほうがありがたいです。

○山口知事

ありがたい。

○飯盛（いさかり）委員

単純に。

○山口知事

でも、結構大変だよね、3教科だとね。よっぽど頑張らないと。

○甲斐教育長

だから、3教科は3教科で、少ないその中で頑張らないといけない部分が。

○飯盛（いさかり）委員

先週、佐賀商業に視察というか、この件に関して校長先生と話したら、昔の感覚でいくと、私立とか職業系の高校は普通の進学校には入れないから選んだという生徒というイメージが私もあったので、尋ねてみたら、佐賀商業の場合はそうじゃなくて、とにかくこのスポーツをやりたいとか、それから商業系の資格を取りたいというような子供たちが選んで来てくれているから、定員も割れていないし、生徒たちの目は活き活きしているというお話でした。

だから、職業高校、さっき言った、魅力をどんどん上げていって、進学とか就職ですごく成果を上げれば、それなりに知名度が上がっていくでしょうし、人気も上がっていくでしょうし、そうすると大学側も昔ながらの受け入れてのやり方ではなくて、特色のある生徒が入ってくるわけですね。もっと突っ込んで言うと、英語が苦手な子もいるかもしれない。でも、高校時代に培った能力が光っていて、入ってきたらその子に応じたような教育というのを変えていってもらえるような必要もあるんじゃないかなという話も出ていました。

○山口知事

特に今、佐賀商業は人気校で、積極的佐賀商業選択派がすごく多いというか。

○加藤委員

活気があるなと思います。

○山口知事

ね。元気だよね、あの学校ね。

○加藤委員

はい。とても活気がある。他のところとちょっと違いますね。

○甲斐教育長

商業は、どこも割れていないですよ。恐らく唐津も鳥栖も割れていない。

○山口知事

逆にこれから普通校がきついと思うよ。普通校は、ある部分、何か特別な技術が身につくというわけではなく、なかなか、よっぽどじゃないとさ、AIが対応できたり。

○前田政策部長

代替が利きますので。

○山口知事

だんだん普通校のシェアは、高校、大学ともに減っていく方向だと思うよね。

○甲斐教育長

そうですね。ただ、まだ中学校の段階で自分は商業だとか工業だとか選べないというところは、高校でも学んで、さらにどういう大学に行くかというところにもつながるので、意義はあると思うんですけども。

だから、中学校のときある程度、工業もよく知ってもらわないといけないという部分はありますよね、中学生に対して。工業高校に行ったらどんなふうになるの、皆さんが今まで思っているのとはまた違う学びだし、大学にも進学していますし、いろんな選択肢があるよというのは多分お見せしないといけないのかな。そのPRも大事かな。商業、農業にしても、いろんな今までの、昔ながらのイメージが多分保護者さんとかもあられるので。

○山口知事

そういうのは知っていたの、佐大側。佐賀商業とか佐賀工業から入る人は優秀ですと。

○荒木委員

優秀です。

○荒木委員

経済学部へ入る人が多くて、商業の子たちのシェアが結構増えてきて、やっぱり優秀だし、公立とか他の学部にも入りたいという人が。

○溝上委員

うちは医療系。でも、普通高校出身者が多いかもしれないですね。商業はないかもしれないです。

○甲斐教育長

山口和範先生もおっしゃっていましたが、普通校と比べて実業科から来る子は優秀ですという話でした。

○飯盛（いさかり）委員

中学校の進路指導が、私がまだ現役だった頃、小学校の教員でしたけれども、やっぱりこれだけの成績を持っているのに何で君は、例えば農業高校に行くんだみたいな指導が今まで残っていないかなという気がして。

○山口知事

さすがに残っていないやろう。

○飯盛（いさかり）委員

本人が希望してこっちのほうに進みたい。でも、いや、進学をして専門的に勉強していったほうがもっといい、高いことができるよみたいな、昔はそんな指導があっていたみたいです。

○山口知事

うん。だから、むしろ、積極的にと言ったけど、積極的佐賀商業というのがすごい今いっぱいいるから、佐賀工業とかね、鳥栖工業もだけど。そういうふうになっていることを教員も知らないといけないね。

○加藤委員

今、佐賀県の若者は専門高校からスタートアップ企業がすごく多いんですよね。若者はそんな佐賀県をつくりたいとか、そういう志を持っている人が多いなと感じます、若者は特に。それがすごくいいなと私は思いますね。

○山口知事

そっか。そしたら、やっぱりあれだね、モノづくりフェアとか……

○前田政策部長

大事です。

○山口知事

キッザニア連携して実施する県の事業とかで小さいときからいろんな刺激を与えると…
…

○前田政策部長

そういう世界があるんだということを知らない。

○山口知事

今まで、ぼーっとしていると普通校にどうしても行ってしまうから。

○前田政策部長

大学に行きたいと思ったら、まず普通高校という選択肢になっていたんですね。

○荒木委員

私も中学生の子供がいるんですけど、お母さん同士で話していると、やっぱりまだとか、やっぱり普通科か実業系高校かという選択で、普通科だよね、まだうちの子は何するか決まっていないから普通科だよね、公立と私立でどっちにしようかなと。で、やっぱり公立のほうがお金も安いというのものもあるし、安心だよねという意識がまだあって、何となくまだ現場では、多分先生方も分かっている以上に、保護者としては、普通科だよねという層は確実にまだいる。それが、私立が無償化になることで、普通科という枠になったときに、無償になったら、じゃ、私立に行こうかなという話が今お母さん方の中で盛んにされているなと思います。

でも、公立がいい、本当は公立に行きたいんだけどといったときに、1個しか選べない。東か西か北か、1個しか選べないとか、今度8月にオープンスクールとかあるんですけど、それも同じ日にあるんですよね。私は北も西も見に行きたいけど、致遠館も見に行きたいけど、同じ日だからどうしようとか言ったりする……

○山口知事

受験日をずらすとどういうことが起きるの。

○溝上委員

知事、さっき僕その話を提案したら、みんなしーんとしちゃったんです。

○山口知事

うん。うちはこういう戦略を取って別の受験日にするとかさ。

○甲斐教育長

おっしゃるような柔軟な考え方はあると思います。

○飯盛（いさかり）委員

県外ではそれは動きつつあるみたいですよ。

○荒木委員

福岡とかがあり得るとは聞きました。

○山口知事

無理してやる必要はないけど、それぞれの校風をつくったときに、うちは入学試験日をずらしめと言ったら、それを教育委員会は止めないで、推奨しては。

○甲斐教育長

軟らかくして考えたいと思いますが

○山口知事

柔軟になっていくのが大事だと思うので、やっぱり時代は大きく変わっているから、ずっと初歩のルールを踏襲していると取り残されるので。

○甲斐教育長

はい。いろんな考え方を入れていこうと今思っ、色々と改革をやっていこうと思っ、やっています。

○溝上委員

公立、私立の奪い合いみたいな話もあると思うんですけど、県内、県外の奪い合いの話もあるよなという話が出たんですね、先ほど。無償化になって、県外の高校、福岡の私立に行く。つまり、佐賀も気づいたら学生を福岡に持っていかれちゃって、どうやって佐賀で学生さんたちを確保していくのか議論していかないと。

○山口知事

今度恐らくね、佐賀に私立高校が来ると思う。

新しく。新しい私立高校校が。

○溝上委員

学生を向こうに。

○山口知事

いやいや、違う。佐賀県内に、公立に行かないでうちへおいでという私立高校が立地すると思う、佐賀県内に。

○山口知事

だって、市場が大きいもん、公立市場が。

○甲斐教育長

東のほうがやっぱりどうしても。

○山口知事

それは福岡のほうでもそうなるし。

○甲斐教育長

はい。

○山口知事

だから、地殻変動が起きてくると思うので。

○甲斐教育長

いろんな影響が出てくると思います。

○山口知事

だから、公立が同じような学校を、普通校をずっと、今までと同じやり方をしていると、逆に取りられていく。これから東京、大阪とかほとんどそうになっていくと思うんだ。

先に別のやり方を佐賀は行って、良い取組をいっぱいしているからさ。そしたら、他の県から佐賀の学校にやってくると思う。だって、今、公立も来ているもんね。何人。

○甲斐教育長

209 人です。

○山口知事

209 ね。増やしていけばいいと思うし。

○飯盛（いさかり）委員

さっきの県外私立の話で思い出したのが、コロナが始まったときに、12 月、1 月ぐらいに始まって、例年であれば県内の優秀な生徒が県外の私立に受験するんだけど、しなかった。県内にとどまった。そうすると、西高の不合格者が増えた。で、その学年は大学受験のときに、例年よりはやっぱり随分学力の高い大学に行ったという結果が出たと思います。だから、日頃はそれだけ流出しているんだと言えるんじゃないかなという気がします。

○加藤委員

すみません、県立高校の普通科の目指すところというのは、やっぱり大学の合格率とか、どこの大学に何人受かったとか、そういうなのですかね。

○山口知事

伝統的にはね。だから、昭和をもし引きずっているとしたらそういうところはあるんじゃないの。

○加藤委員

学校として何かこう何人とかでも、もちろん生徒が希望する進学ができるというところを一生懸命進路指導しているんだと思って。

○飯盛（いいもり）委員

今、ロータリーの地区委員しているんですけど、ある委員長から悩みで聞いたのが、佐賀県内の学校に通っていて、その子が1年間交換留学に行きたいけど、すごく成績がいいから、東大に行けるかもしれないから留学に行くな、と先生が許可を出してくれないというのが悩みというのを聞いて、そういうのがやっぱりあるんだなというのは認識が。海外に行くとそれだけ視野が広がるじゃないですか。

○山口知事

広がる。

○甲斐教育長

（海外留学も）別にいいと思います。

○飯盛（いいもり）委員

そうそう、お金もロータリーが出すわけだから。行きゃいいのになと思って。

○加藤委員

高校のあれかな、合格が。

○山口知事

最近聞くのは、そうすると、行っちゃって高卒認定試験受けるらしいよ。そのぐらい、成績のいい子は高校なんか別に卒業しなくても、大学に行けるので。

○甲斐教育長

だから、多分、先生ももし引き止めるんだったら、こう思うからこうだと、自分はこう考えるよというのを伝えるのが正しいんだと思って。気持ちは伝えていいんだけど、こうしろというのはちょっと違うんだと思います。なぜそう考えるのかというのを、あなたのためにとかというんじゃなくて、これこれこうだからこう思うよというのを伝えるのが進路指導。

○山口知事

海外に1年行ったら、その分単位化してあげるんでしょう、教育委員会。まさか1年留年

させはしないよね。

○甲斐教育長

ありますよね。

○山口知事

してあげて、行かせて、それで、ちゃんと授業を向こうで受けたら、単位は倍やってもいいぐらいだからさ。

○甲斐教育長

そうです、そうです。

○山口知事

今、通信だってそうだしな、いろんな選択肢があるから、夜間もそうだし。だから、やっぱり今までの常識でやっていると。

○加藤委員

スピード感を持って。

○飯盛（いいもり）委員

さっき、小さい頃からものづくりという話が出されたんですけど、ずっと数年前からうちの子供たちにもものづくりとか、高校生と交流をしてほしいなというもやもやがあって、3月ぐらいに校長先生たちをお願いに行って、今年初めて佐賀工業とうちの園児とコラボができて、取材も来ていただいてやったんですけど、3Dプリンターでミニカーを作って、それに園児たちが色をつけたり組み立てたり、工業の生徒のお兄さんたちがアドバイスをしてくれたり、すごくいい活動だったんですね。

○山口知事

それはいいじゃないですか。

○飯盛（いいもり）委員

うちの園児たちも、ものづくりに触れるいい機会だったと思うし、インタビューを受けていた高校生も、ものづくりって何か分からないけど、園児のときに佐賀工業に行ったんだと少しでも記憶に残っていたら、受ける子も増えてくるかもしれないし、いいきっかけだったなと思うし、今年は牛津高校との交流もあるので、いろいろやっているんですけど。

○山口知事

いいじゃない、それやろうよ。

○飯盛（いいもり）委員

やっぱり地域とつながるのがすごく大切かなと思います。

○山口知事

キッザニアと連携して、県とコラボしてやるんだけど、すごいよね、殺到するよね、子供たち。

○前田政策部長

殺到すると思います。どこの県でもやっています。

○山口知事

だから、先着順にやめろって指示しておいて。。

○甲斐教育長

あっという間にいっぱいになっちゃうので。

○山口知事

誰でもやれる、当日以外多分用意するんだけど、やっぱり限られているやつ。企業もやはり人材がすごい必要だから。

○溝上委員

めちゃくちゃ強いです。その専門の会社を造りましたから。採用コンサルティングの会社を造るぐらい、やっぱり人の奪い合い。

○山口知事

そうだね。

○溝上委員

だから、今年は佐賀県の教員が 0.9 という求人倍率を見ると、プロポーションとかもうちょっとなんか思ったりはしますよね。それで、私が聞いたりすると、教育実習に行って先生になるのを辞める人がいるみたいな話もこの前聞いたりもして。

○山口知事

それは何のために。資格だけ取ってほかのことをやるわけ。

○溝上委員

憧れを持てなかったみたいな議論がさっき。

○山口知事

あっ、やってみたけど。

○溝上委員

やってみたと、はい。

○飯盛（いさかり）委員

昔は教育実習に行つて（教員に）なろうと思ったという声をよく聞いたんですよ。最近に行つて、うわ、こんなに大変だったらという。

○山口知事

逆効果になっちゃっているんですかね。

○甲斐教育長

昔から一定数いたと思いますけど。自分は向いていないという人もいます。やっぱりちょっと難しいなという方も、マッチングの間でもあるのかなと思っていますし、今、結構皆さんいい環境で受け入れていますよね。

○飯盛（いさかり）委員

今、先入観……

先入観を持ったまま教育実習に行つていて、あっ、やっぱりだというふうに思っている人がいるんじゃないですか。

○溝上委員

今私が発言したのは、教育のところの実習がよくないと言いたかったわけじゃなくて、一般の企業が今どんなことをやっているかという、うちも半年の実務実習があるんですけど、2か月半の。それを現場任せにするのではなくて、初日に経営者が出て会社のビジョンを話して、10年後、20年後の業界の中でみたいな話もして、2か月半テーマを与えて、最終日に発表させて、全員でほめたたえるわけですよ。

○山口知事

すごく達成感があるわけね。

○溝上委員

はい。これを何でやるかというと、求人に困っているので、やっぱり単なる実務実習じゃなくて、薬局の薬剤師で働くって良いじゃんと思ってもらわないと来てもらえない。だから、そういうことをいろんな企業が人を取るためにやっているというのが世の中ではあっている、相対的に負けていくという世界なんです。

○山口知事

佐賀県庁もさがデザインにインターンが来るとすぐ県庁に入るよね。

○溝上委員

そうですね、大成功されていますよね。

○山口知事

やっぱりああいうところに行くと何か生き活きとやれるというのか、そこですごく苦しい課にインターンをやると、おお、ちょっととなるもんな。

○飯盛（いいもり）委員

今、佐賀大学のHR交流会というのがあって、県内の企業の人事担当者が集まって、佐大の卒業生をできるだけ定着させるようなグループがあるんですけど、インターンはすごく大切だと思いますね。インターンで会社、雇う側もその子がどういう人かというのを見るけど、雇われる側もこの会社で働きたいと思うのか、いや、やっぱりやめとこうと思うのか、そのインターンの時期だと思うので、多分それは教育実習も同じような感じかなと思います。

○山口知事

言葉を変えたら、教育実習。

○甲斐教育長

実習でしょう。

○飯盛（いいもり）委員

インターンに。

○山口知事

佐賀のインターン。だから、すごく良かったなとみんな思ってもらえるようなプログラムも含めて。

○甲斐教育長

段階、段階で策を練っていかないといけないと思います。

○加藤委員

教育実習に行ったときに、やっぱり管理職の方が直で教えたりとか指導すると離職率が少ないそうです。担当者任せにしとくと、もう駄目ですね。なので、そこに入ってみて、一緒にフォローするみたいな感じだと良いみたいです。

○甲斐教育長

大きな視点からさっきおっしゃったパターンというのが大事ですよ。

○溝上委員

やっぱり現場は現場の良さもありますし、経営は経営者でないと語れないことがあるので、両方大事なんだよという……

○加藤委員

現場でやることと（経営者の）マインドと、同時に伝えていくというのが大事ですよ。

○飯盛（いさかり）委員

視点を変えて。私学の強みは何だろうと考えたときに、校風とか独自性、歴史と伝統とか譲れない部分、教員の配置にも制限がないから、多くを採用することができる、それで、マンツーマンに近いような形をするとか、現実はとても教員不足でそれはできていないんですけども、私立の場合は、転勤がないですから、専門分野のあの人はすごい、あの先生の指導を受けたいから部活動とか、それから、進学に関しても、そういったのが可能だと思います。ただ、先生の研修ということに関して言うと、私の経験からいくと、公立のほうが、研修の充実をさせなさいというのが、教育基本法で決まっていますので、研修の充実度でいくと、全体のレベルは公立の先生のほうが高いと思います。

その中で、できそうなことを公立で考えた場合に、特色を出す学校づくりということで始めたんだったら、校長先生の在任期間を延ばすというか、生徒は3年で入れ替わっていきますので、しっかりしたリーダーシップを持っている校長先生には、その学校にずっといてもらおうと。それから、リーダー的な先生も人事異動の期間が過ぎても残ってもらおうとか、全員そういうふうにすると、また私立と同じような感じ、悪い面が出てきますので、特例としてそういった方法もできそうではないかなという気もしています。

○山口知事

あれ、何で人事異動ってするんだっけ。

○甲斐教育長

組織を活性化するために。活性化というか、でも、おっしゃったように、今何か必ずしも何年だから、はいとか、次はこことかって決めてやっているわけではないんですよね。

○山口知事

みんなハッピーだったらそれでよくて、たまに介入しなきゃいけないときというのはあるから、やっぱりそこは雰囲気はあるんだろうなとかいろいろ、そこはいろんないいところを使ってあげるので、無理くりみんな、あんたは3年だからと強引にということをやる必要はないのかなって……

○甲斐教育長

ないし、やっぱりほかの学校を経験することで違うやり方を経験するので、いいものを持って次の学校に行けますよね。やり方はそれぞれ……

○山口知事

でも、私立って何でずっといるの。

伝統になるわけだね。

○飯盛（いさかり）委員

だから、卒業生はよく訪ねてきています。その先生がいるということも分かっていますから。公立の場合は転勤でどこに行った、どこに行った。

○山口知事

そうだね。でも、私立だってこの前、弘学館に行ったら、早稲田佐賀から来ましたという先生がいたよ。だから、それなりに流動化しているんじゃないかな。

○甲斐教育長

ある程度の流動があって良いかなと思っています。人事交流というのはいいんだと思うんですよね。

○飯盛（いさかり）委員

人事異動は最大の研修ですというふうに指導を受けていましたね。

○山口知事

なるほど。知事部局は、無理やり異動しないよね。

○前田政策部長

していません。

○山口知事

ハッピーな人はハッピーでいい、みんなハッピーだったらいい。

○飯盛（いいもり）委員

人事異動を強制じゃなくて公募制とかに、自分で手を挙げるみたいなの。

○山口知事

そう、それも面白いなと。例えば、先生、私はもう参った、ここの学校はと言うのはありだなと思うし。人事異動ができるのは、公立の良いところだから。みんながハッピーでいい感じでシンプルに。

○甲斐教育長

そんな、三、四年では動いていない。割と長い。

○山口知事

長くね、特に高校は長くてもいい。

○甲斐教育長

進路指導とか結構、長くはまっていたりとか。やっぱり中心の方というのはおのずと長くいていただいています。

○山口知事

そういったところは工夫して。

○飯盛（いいもり）委員

私立ってスポーツ勢とか多いじゃないですか。県立高校は監督、先生の異動があるから、校長先生と話をしたときに、あの先生があちに異動してというのは、保護者対応で大変な1年になりそうですとかという話も聞いたことがあるし、商業とかも柔道とか水泳が強いじゃないですか。じゃ、彼らがずっといれるかというのと、多分どこかで人事異動が……

○山口知事

そこは知事が介入できない部分なので、実情は知らないけど。

○飯盛（いいもり）委員

ずっといれる制度なのか、北高の新体操が強くなってきているし、監督がどこかに行ったらそのチームはどうするのと、後任の先生が来るわけじゃないから。

○山口知事

例えば、鳥栖工業なんかそうだね。レスリングなんかそれはいいんじゃないの、そのまま。よほどのトラブルがあれば難しいけど。

○甲斐教育長

そこは無理やりには。

○山口知事

江島さんどうですか。

○江島副教育長

そこは固定で、可能な限り。

○山口知事

どう、でもやっぱり何か、自由な風が吹いてきている。

○江島副教育長

大分自由な形で。

○山口知事

自由にしている。そうそう。どうしても人間だから、頭って堅くなるので。自問自答しながら、俺も 60 歳になったからいつも自問自答しているわけ。こう言っている自分は堅くなくなかって、そうやって考えないと、時代が早過ぎてさ、今。だから、飯盛（いさかり）先生みたいに取材に行くのはすごい偉いなど。今の実態をちゃんと。

○飯盛（いさかり）委員

たまたまタイミングが良かった。

○山口知事

取材大事だよな。学校経営も昔と違う。

○前田政策部長

子供たちが変わったんですかね。

○甲斐教育長

そうです。子供たちも……

○山口知事

子供も変わった。大人も変わったんでしょうけど。

○荒木委員

ChatGPT でレポートを書く高校生がいて、ある先生に ChatGPT で書いているかどうかを分かるソフトないですかと聞かれた事があって、多分 ChatGPT で書くというのが当たり前にこれからなってくるから、もちろん自分の頭で考えて創作するのは大切だけど、そこで ChatGPT で書いたかどうかを判別するソフトを開発することが必要なのかなというのはすごく考えさせられました。ちゃんと自分で考えなさいと言いたくなる世代なんですけれども、これから多分そっちが主流になってくる。

○山口知事

まさに中教審でその議論をしているよ。それでいいのか悪いのかというのが……

○荒木委員

そう、分からない。

○山口知事

レポートから何から全部出てくるから、データでさ、ChatGPT でさ。先生も困っているし。全部それで学習できるじゃないかと。教育は大変だ、今から、この後。本質論になるし。

○飯盛（いいもり）委員

幼児教育はあまり、ChatGPT 導入できないかなと思うんですけどね。

やっぱり人間性を育てていくのは人間じゃないとできないかなと思っています。

○飯盛（いさかり）委員

北海道なんか遠隔授業が随分進んでいると。特に面積が広いところ。岩手とか、長野やっただかな。本当に受けている側、拠点校から配信をするんだけど、受けている側は1人の生徒が受けているようなところもある。ただ、今、文科省の規定では、そこに必ず学校の誰か先

生がつかないといけないと、横に。そうすると、受けていて、終わった後に、分かったねと。いや、あそこの部分が分からなかった。あそこはこうこうこうよと追加で、マンツーマンで指導ができると。それで、この子の学力が上がっていくと。そういういいところもあるというような話もあっていました。長崎も割と離島があるから進んでいるみたいです。

○甲斐教育長

遠隔授業はこれからは順次入っていくと思うし、そういう科目、普通だと、小規模になっていて、そろえないところの先生の授業を受けれるとか、あと、進学校のすごい難関校のやつを受けれるとか、そんな使い方ができまして、あと、不登校のお子さんが……

○山口知事

最近の人って英語、英会話とかってA Iで勉強している人がやたら増えていて、要はA Iが相手だと恥ずかしくない。結構下手な英語をいっぱいしゃべって、直してくれて、しかも、AIはへこたれないから、繰り返し学習できる。

○甲斐教育長

そういう部分は、良い面であるなと思います。

○飯盛（いいもり）委員

特色あるのもう一つ、去年か、7月にインターナショナルスクールとか、国際学園を見て回って、何か佐賀県にもそういうのがね、コースでもいいからあると、県内にその選択肢がないじゃないですか。やりたい生徒は結構、保護者も含めていると思うんですよね。そういうコースがあると、また来る人たちも増えるのかなと思います。

○山口知事

飯盛（いいもり）さんが……

○飯盛（いいもり）委員

いやいや、私がやっているあれでもないですけど、県立高校とかね。広島とか、今日はあれですよね、長野でしたっけ、そういうところで中高一貫で、ボーディングスクールにしても、バイリンガル教育をやっている県立高校という、県立学校というのもあるので。

○山口知事

それを県立でやるわけ。インターナショナルスクールを。

○飯盛（いいもり）委員

はい。広島は国際バカロレア機構の教育プログラムを取り入れている学校がある。

○山口知事

それを考えているの。

○飯盛（いいもり）委員

いやいや。

○甲斐教育長

どちらかというと帰国外国人制度というか、日本語指導が必要な生徒の対応というところでもっとここがね、今、これから増えていくからというところは考えなきゃねと話しています。

○山口知事

それは知事部局でも考えなくてはいけませんよね。増えているもんね、外国に行っている、いろいろなパターンで。もちろんスポーツ選手の御子息もいるし。

○甲斐教育長

どういうふう to 受け入れる——もう増えていくのは間違いないです……

○前田政策部長

ニーズがありますからですね。

○甲斐教育長

ニーズがあるのでということで。

○飯盛（いいもり）委員

帰国外国人で、佐賀で小・中学校を卒業した子たちが、じゃ、進路どうなんですかと。やっぱり受皿がまだ少ないような感じなので、その子たちも安心して高校、大学と進めるような環境を県としてどういうふうにつくるかというのは課題と言えるかなと思います。

○山口知事

なるほどね、そうだね。

○甲斐教育長

都立は結構、大阪とか東京都とかは、普通高校がそれこそ私立と一緒にいっぱい同じ地域にあるのであったら、多分、大阪なんか、どれぐらい定員を切ったらどう再編しますみたいな基準があって、はっきり出しているんで……

○前田政策部長

3年連続で定員割れを起こしたら廃校というか、統合というふうな……

○甲斐教育長

統合対象って、もう決まっているんです。

○山口知事

そこも常備しているの。

○甲斐教育長

そうです。

○前田政策部長

3年連続で……

○甲斐教育長

システムでつくってしまっているんで、すごいことになっていると。そ

○前田政策部長

いいところ悪いところありますよね。

○山口知事

そうすると、その先生たちは廃校を前提で、いいやと、これで異動だなんて感じ。

○溝上委員

必死に集めるということですか、それは。必死に集めてもらうためにということですか。

○前田政策部長

そうですね。

○溝上委員

企業なんかはそういうのをやりますよね。目標を決めて、どれだけ……

○山口知事

企業。

○溝上委員

はい、やりますけど、学校でやるんですか。

○前田政策部長

ただ、大阪府は既に半数が定員割れなんです。東京都も大体……

○山口知事

いや、だから、私立に皆行きたいわけよね、都市部は。だから、府立とかあんまり行きたくないと……

○溝上委員

なくなってしまうということですね。負けているということですね。

○山口知事

そう。もっと本質論で、いつも言うんだけど、県営住宅もそうだけど、時代とともに、じゃ、何で県立なのかという、その本質的なところからいかないといけない時代に今入っていて、何で高校は県立なのかとか。例えば、極論で言うと、全部私立じゃ何でいけないのかとか、そういうところから議論していくと、県立の意義というものが見えてくると思う。

○溝上委員

さっき、テストは5科目じゃなくて3科目が楽でいいみたいな言い方しましたが、僕、思い返してみると、大学、薬学部は3教科で受けているんですけど、化学だけめちゃくちゃよかったんですよね。

○山口知事

理科ないの。薬学部なのに。

○溝上委員

いや、化学です。化学と生命。物理はなしだったんですけど、いや何が言いたいのかというと、強みで勝負できるという見方もあるじゃないですか。少ないというのは。だから、公

立、私立を見たときに、俺この教科が強いからこの高校を選ぶという、自分の強みを評価してくれるという見られ方もあるのかなと思ひましてね。

○山口知事

なるほど。俺なんか、みんな 70 点ぐらいの人だから、教科が多いほうが好きというか、満遍なく取りたい人だという感じだったけど、だって、教科が少ないと、激しくプロにならないと。

○溝上委員

だから、学校の特色と、普通科でも 3 教科あってもいいかもしれないとか、公立でもですね。

○甲斐教育長

そういうふうに合わせているところにマッチングして行くと、ちゃんと選んでいくというのがより強くなってくるので。

○山口知事

うちの私立だと結構、どうなんだろう。県外が取れているんじゃない。

○私立中高・専修学校支援室 徳安室長

増えています。

○山口知事

増えている、そうだよな。うちは、私立は私立で頑張らせて、県外からね。

○甲斐教育長

だから、補助金も、インセンティブが。

○飯盛（いさかり）委員

都会の学校は廃校しても通学に困らないでしょうね。

○甲斐教育長

うちはなかなか、今公立でどこかのまちとなるので。

○前田政策部長

いや、多分、大阪は、中心部はそうでもないんでしょうけれども、今回廃校になったところは大阪の南のほうなんですけど、廃校になったら、近くの普通高校と統合しているんです

けど、その統合したところも定員割れしている。

○飯盛（いさかり）委員

京都になると、南部はいいけど北部が困ると。

○甲斐教育長

定員割れになったけれども、ここで通いたいという子たちが、必ずしもどこまででも通え
ると、交通費が払えるとか、私立の校納金まで払えるとかではないので、この部分も結構苦
しくなるのかなと。

○前田政策部長

一つの地域に一つの高校というのがやっぱり必要みたいな話になってくるので、そう
なると、高校がなくなることで地域そのものも衰退していくという話になってきます。

○溝上委員

特色も出しにくい部分もあるかもしれないですね。まさに1校しかない学校がめちゃく
ちやとがっている学校で全然行きたくないみたいなことも起きてくるとですね。

○佐保政策企画監

15時を回りましたので、第32回の佐賀県総合教育会議をこれで終わりたいと思います。
ありがとうございました。